

平成 22 年度 府立吹田高等学校 学校評価報告書

府立吹田高等学校  
校長 畑中 利明

1 めざす学校像

創立 61 年目となる本校が目標とするのは、培われてきた伝統を踏まえるとともに、【グローバル】な視野を持ち、世の中の変化に対応しながら【ローカル】に活躍するというような、一層柔軟でたくましい『元気力・行動力・人間力』のあふれる人材を育てることである。  
このような使命を果たすために、『わかる』から『できる』へ授業の質を高め、『吹田から世の中へ』をスローガンに、社会(国際社会/地域社会)とつながる学校【グローバル・スクール】づくりをめざす。

2 本年度の教育目標

- 「わかる授業」「魅力ある授業」づくりを推進する
- 地域と連携して多様な学習の機会を提供し、学ぶ力を養う
- 基本的な生活習慣の確立を図る
- 将来の社会と人生を見据え、進路希望の実現をめざす
- 健康を増進し、校内環境の美化と整備に努める
- 創立60周年を契機に、教育活動の更なる活性化に取り組む

3 本年度の取組計画及び自己評価

領域	具体的な取組計画 [平成 22 年 4 月 記入]	取組状況の自己評価	今後 進めたい取組み
(1) 学習指導等	<ul style="list-style-type: none"> <li>①良質の授業を提供するために、授業を公開し、教員間の授業見学、授業研究、授業評価、学外研修を利用して授業内容の改善に努める。</li> <li>②実験、実習、実技のみならず、すべての授業で生徒に参加と表現の機会を与えるよう、授業のあり方を工夫する。</li> <li>③新学習指導要領への移行に備え、魅力ある教育課程の検討を進める。</li> <li>④学ぶ力を養うために、地域にある大学や教育施設、または関係機関との連携を図り、学外の教育資源を積極的に活用する。とくに、地元吹田市との提携のあり方を模索し、教育活動の活性化を図る。</li> <li>⑤教科に関する技能審査や資格取得を支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①②フェニックス委員会が主催する授業研究週間(11月)、及び教員の授業評価の取組を実施した。「くわいホール(視聴覚室)」では、各教科や総合的な学習の時間に I T 機器の活用プレゼンや討議等を伴う実験的授業が行われている。</li> <li>③23 年度に「こども未来専門コース」を設置することとした。</li> <li>④従来からの「吹田くわい保存会」等との連携に加えて、吹田市立博物館と包括的な「高博連携」協定(3/1 付)を締結した。</li> <li>⑤漢字・硬筆書写・家庭科技術・英語・ワープロ各検定を多数が受検し、単位認定も行った。ホームヘルパー資格も取得。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>最大の課題と責任は、引き続き良質の授業を提供するという点にある。そのために、下記の方策が考えられる。</li> <li>・公開と教員間の授業見学、研究の推進</li> <li>・授業アンケートの実施と工夫</li> <li>・施設等の整備と活用の工夫</li> <li>・近隣の教育資源の一層の活用</li> <li>・魅力ある教育課程の構築</li> <li>・資格取得による意欲の喚起</li> </ul>
(2) 生徒指導等	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学習保障には基本的な生活習慣を身につけさせることが不可欠であるとの認識のもと、前年比10%以上減を目標に、生徒の実態を踏まえた総合的な遅刻指導対策に取り組む。</li> <li>②教育相談機能を一層充実させ、スーパーバイザーとも連携して、生徒の学校への定着、適応を支援し、中途退学の防止を図る。</li> <li>③全校で部活動を支援し、クラブへの参加を奨励するとともに、部活動を通して豊かな人間性、社会性を養う。</li> <li>④『吹田から世の中へ』の理念に基づき、クリーンキャンペーン等の地域におけるボランティア活動や社会的な体験を通じて、市民意識の涵養を図る</li> <li>⑤早期に進路意識を高めるために、学年の進行に応じて計画的、継続的な進路指導を実施し、進学や就職に関するきめ細やかな情報提供を行う。また本校に配置されている就職支援コーディネーターと積極的な連携を図る。</li> <li>⑥生徒の生活実態の把握に努め、学校三師(学校医・歯科医・薬剤師)とも連携しながら、効果的な保健指導を実施する。その際、学校保健委員会を積極的に機能させる。新型インフルエンザや麻しん等の感染症に関する対策及び教育に組織的に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①生活指導部を中心とする組織的な指導、1 学年の「朝ガク」実施効果により、目標値に達しなかったものの、全体の遅刻総数は前年比 92.3%となった。</li> <li>②担任、保健室とスーパーバイザー(外部専門機関を含む)が連携し、関係生徒・保護者にきめ細やかな指導、対応を行った。</li> <li>③1 年のクラブ加入率が上昇し、年間を通じて部活動に係する表彰数も増えた。</li> <li>④クリーンキャンペーンの他、家庭科部、イラスト・美術部等が吹田市の関連事業に参画、貢献し、高い評価を得た。</li> <li>⑤従来の取組を早期化して、進路に関する校外体験学習を1年から取り入れた。また、進路部と就職支援コーディネーターが連携し、求人企業開拓や積極的な受験勧奨に努めた結果、年度末の就職希望者の内定率は約 95%となった。</li> <li>⑥生徒保健委員・P T A 代表も参加する学校保健委員会を年間 2 回(7/15・2/17)開催した。「保健だより」の他、メルマガを活用して麻しんの予防接種勧奨を進めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基本的な生活習慣の確立(生徒指導)、進路意識の向上(進路指導)、健康の保持・増進(保健指導)は、相互に関連しながら生徒の学習を保障する前提となる。</li> <li>とりわけ、学習成果と高い相関のある遅刻の問題に対し、始業前の「朝ガク」や S H R を新たに全校的な取組とする。</li> <li>○『吹田から世の中へ』の理念を実践に活かし、社会体験を通じて生徒に市民意識の涵養を図る取組を推進する。</li> <li>・吹田くわいに関する活動</li> <li>・幼稚園、保育園、老人ホーム等でのインターンシップ</li> <li>・市立博物館の諸事業への参加と協力</li> <li>・トンネルアート制作への参加</li> <li>・東日本復興を支援する活動への協力</li> </ul>
(3) 学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>①当面の教育諸課題や社会の変化に機敏に対応するため、運営委員会が調整して各分掌の効率的な活動を促すとともに、分掌横断的な課題についてはフェニックス委員会等が機動的に対応する仕組みを確立する。</li> <li>②学校ホームページやメルマガを有効に活用し、教育方針、教育活動等の学校情報を積極的に発信する。</li> <li>③授業公開、中学生体験入学、学校説明会、中学訪問等の実施を通じて中高連携を推進するとともに、広報活動の充実に努める。</li> <li>④教育環境の安全化を推進するため、事務室・技師室と日常的に協力して、施設設備の整備に努める。</li> <li>⑤教育目標と関連情報の共有に努め、教職員が相互に資質を高めあう職場環境づくりを行う。とりわけ、教職経験の豊かな教職員と少ない教職員が二層化することなく、実践を通じて協力と成長ができる学校をめざす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①フェニックス委員会が授業改善、学校説明会、地域連携事業等に幅広く機能した。その他の新たな課題にも、小さな組織(委員会)が時機を逸することなく適切に原案を練り、大きな組織(学校)を動かしていく仕組みが確立できた。</li> <li>②③ホームページの随時更新、メルマガの毎週末発行が継続された。フェニックス委員会の主導で中学校訪問を実施し、別途、新たな専門コースの説明も行った。</li> <li>④重大な事故の発生を防止するため、施設の整備・管理と、生徒の安全を守る指導、支援の体制づくりに全校で取組んだ。</li> <li>⑤職員会議やメーリングリストを活用した目標と情報の共有、意思疎通が行われた。若手集団がベテラン教員の指導の下で、説明会を始め、多様な活躍の機会を与えられている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本校の伝統と実績を継承、発展させる教育活動、「使える英語プロジェクト(E F H S)事業」を始めとする新規事業、及び安心安全のための一体的な組織運営に一丸となって取り組みたい。</li> <li>施設設備の老朽化・安全化対策を進めその更新・改善を実現するには、教育委員会等への働きかけとともに、今後とも諸施策、新規事業を積極的に活用する必要がある。</li> <li>○教育実践への参画を通じて、ベテランから若手集団への経験の継承を一層促進し、総合的な学校力を高める。</li> </ul>
(4) 追加項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>①60 周年記念事業の実施年に当たり、実行委員会が企画する事業を着実に実施するとともに、国や府の諸施策、新規事業も活用しながら、将来の教育基盤づくりを一層推進する。また、本年度の教育活動の一部をとくに記念事業の一環に位置づけて取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学習環境の改善、部活動の支援、学校行事の充実という周年事業の三大目標が予定通りに実現され、施設基盤が整備、強化された。式典(10/14)後も、社交ダンスパーティ(12/20)、吹田くわい発表会(1/15)を記念事業として実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>整備された「くわいホール」、トレーニングルーム、音響機器が活用の段階に入っており、一層の創意工夫により、その成果を外部に発信する。</li> </ul>

4 学校教育自己診断における結果と分析

[ 隔年に実施・平成 21 年 10 月 実施分 ]

* 実施対象 ( 教職員 ・ 児童・生徒 ・ 保護者 ・ その他 )
<b>教職員</b>
・教育活動全般について、概ね肯定的評価をしている。
・しかし、組織的な補習、講習については、実施体制が確立されていないと考えている比率が高く、その改善は次年度の課題である。
<b>生徒</b>
・宿題の量について、過半数の生徒は少ないと回答しており、家庭学習を定着させるうえで再考する必要がある。
・遅刻や頭髪、服装に関する生活指導については、学校の取り組み姿勢を相対的に高く評価している。
・生徒実態調査の各項目については、最頻値を見ることで生徒の生活傾向がほぼ浮かび上がってきて、有意義であった。
<b>保護者</b>
・学校生活、授業、生徒指導の各分野で、生徒の受けとめ方よりも肯定的な傾向が見られる。
・学校情報の提供については、浸透度から見て改善の余地がある。

5 学校協議会における提言内容

* 実施日 第 1 回 ( 8 / 5 ) 第 2 回 ( 11 / 17 ) 第 3 回 ( 2 / 28 )
* 委員構成
山本冬彦(関西大学教授)、築谷康夫(吹田市立片山中学校長)、荒木勇夫(地元連合自治会長) 清水功(同窓会副会長)、浮田喜美子(P T A 会長)、小島勉(後援会長)、稲山三郎(N P O 法人すいた市民環境会議副理事長)、高橋誠(大阪学院大学教育開発支援センター課長)
* 内容
第 1 回 授業や生徒の現状、フェニックス委員会と 1 年「朝ガク」の取組について説明。生活規律と学習成果の密接な関連から、遅刻を減らす「朝ガク」の取組を広げてほしい。
第 2 回 新規採用教員(音楽)の公開研究授業を観察。その後、ベテラン教員・指導主事とともに研究協議を行い、生徒とのコミュニケーション能力・技術の重要性を共通認識した。
第 3 回 これまでの成果と課題の検証、教務・進路・生活指導部より年間総括を報告した。日々の「朝ガク」を継続していくことの重要性を指摘。教員間の自主的な取組としての授業見学と教科の研究授業は豊富な可能性をもち、積極的に実施していくべきである。